

問合せ先 港湾課

長崎港元船地区整備事業

事業実施にあたっては、民間資金等を活用した官民連携（PPP／PFI）事業の導入を検討しています。



※構想策定時点のイメージであり、整備内容が決定しているものではありません。



元船地区エリアゾーニング



- 国内ターミナル機能を西側に集約することで利便性を向上
- 東側に観光・交流機能を配置し、ベイエリアやまちなかと連携を図ることで、更なる賑わいを創出

整備のポイント

1. 暮らしを支える国内ターミナル機能等の強化による利便性向上
2. 臨海部を活かした観光・交流機能等による賑わいの創出
3. 車両や歩行者にとって優しいみちづくりによる回遊性向上
4. 港、海が感じられる景観による魅力の向上
5. 官民が連携した整備、運営、維持管理の実施によるおもてなしの向上

▶ 計画平面図



2 国際交流の拠点となる港湾の整備

問合せ先 港湾課

●クルーズ観光による地域経済の活性化に向けた受入環境の整備

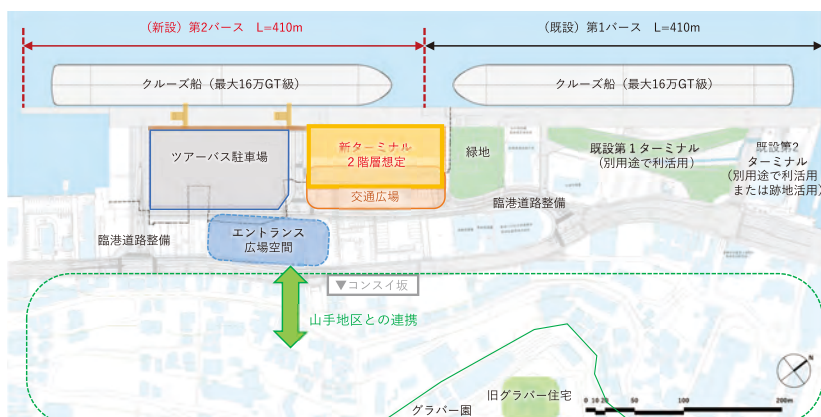
国際クルーズ船の受入

2025年の長崎港における外国船社が運航するクルーズ船の入港回数は194回で、全国1位となりました。
また、日本船社を含むクルーズ船全体の入港回数は198回で全国4位となっており、今後もクルーズ船の寄港による賑わいの創出が期待されます。

長崎港 松が枝2バース化事業

クルーズ需要の増加やクルーズ船の大型化に対応するため、岸壁を410m延伸し、旅客ターミナル、ツアーバス駐車場を整備することで、更なるクルーズ船の受入拡大を目指します。

あわせて、周辺の道路や緑地、エントランス・広場空間などを関係機関と連携して整備し、山手地区へ観光客を呼び込むなど、“みなとまちづくり”を促進します。



2026年3月26日

左:松が枝岸壁(MSC MAGNIFICA 95,128総トン)
右:出島岸壁 (LE SOLEAL 10,992総トン)

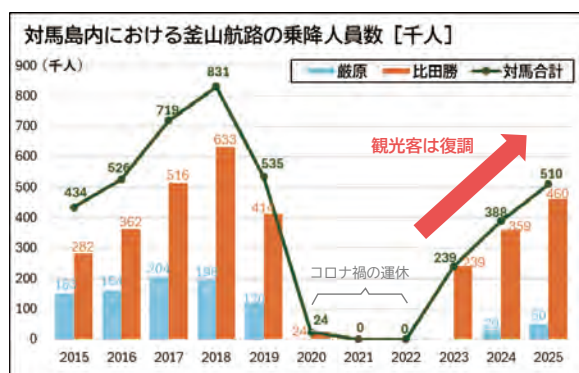
●国際定期航路による外国人観光客の安全・安心な受入環境の整備

釜山との国際定期航路

対馬ー釜山間の国際定期航路は、新型コロナウイルスのまん延により、約3年間全ての国際定期船が運休となっておりましたが、2023年2月に運航が再開し、外国人観光客が戻りつつあります。

2026年4月現在、比田勝港で週24便、厳原港で週5便の国際定期船が運航しており、比田勝港においては、観光客の増加に対応する国際船用浮桟橋の整備が完了しました。

引き続き、国際交流の拠点となる港において観光客の受入環境整備を推進します。



比田勝港

国際定期船の運航再開 (令和5年2月)



国際船用浮桟橋の整備 (令和8年4月)

厳原港

国際定期船の運航再開 (令和6年4月)



3 離島・半島等のくらしを支える地域交通の確保

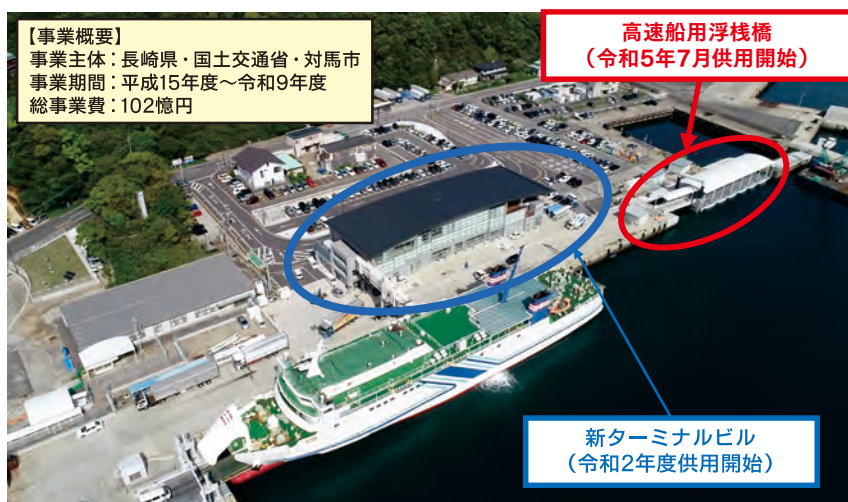
問合せ先 港湾課

本土-離島間を結ぶ定期航路の安定的な海上運輸活動を支え、効率的で利便性が高い港湾整備を推進します。

郷ノ浦港 高速船乗降施設のバリアフリー化



厳原港の埠頭再編（旅客埠頭の整備）

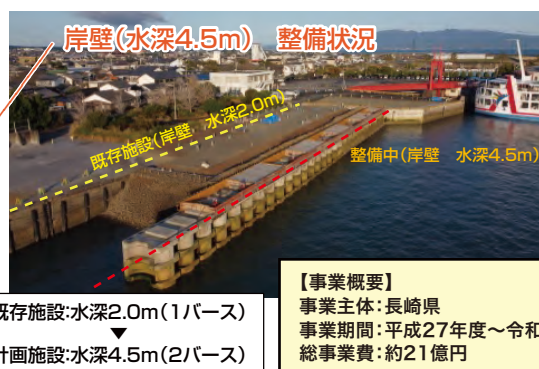


4 国内物流ターミナルの整備

問合せ先 港湾課

多比良港における物流岸壁の整備

物流ターミナルの整備・機能強化を行うことで物流の効率化・ネットワーク強化を図り、地域活性化を推進します。



【事業概要】
事業主体：長崎県
事業期間：平成27年度～令和9年度
総事業費：約21億円

多比良港の既存の港湾施設は、貨物船の規格に対応しておらず非効率な荷役となっていたことから、新たな岸壁整備によって荷役作業の効率化を図っています。
また、隣接する埋立地は各種企業の立地が進んでおり、岸壁整備による物流の効率化・ネットワークの強化が地域の産業振興に寄与しています。